

インターネットによりニュースが配信されるようになったからといって、新聞や雑誌は不必要だと簡単に結論づける意見には、私はどうにも賛成しがたい。理由としては、まずいわゆる情報格差が一国内においても、また国際的な観点で見ても今だに厳然と存在し続いていることにある。日本を例にとっても、全ての人が自在にパソコンや携帯電話などといったIT機器を使いこなせているわけではない。例えばこれらの機器を見事に使いこなす高齢者なども増えていることはいるのだろうが、それでも一般的な高齢者にとって、これらの機器を思うままに操ることにハードルは高いものがある。携帯電話の場合、ペーサーやカー等医療機器に悪影響を与える、そもそも画面が小さくて見にくいといった別次元の問題も発生する。また国際的な視点から言えば、パソコンや携帯の普及どころか、そうしたものと根付かせるインフラの整備すら整っていないという所さえ少なくない。また

パソコンや携帯が対応してない言語というのを使う人々もいる。情報格差の面から言えば、このように、ネットによるニュース配信のみでは、ニュースと多くの人々に伝えるにはあまりに不十分である。もう一つ私が許えたいのは、柔軟性がある、扱いやすいという新聞や雑誌の特長である。ネット上で読むのではそうはいかないが、新聞や雑誌には自由に自分の手で書きこみができるし、気になった記事とすぐに切り抜いてスクラップしておくこともできる。プリンターと引っ張りだして印刷して...という手間もいらない。読み返したい部分が後でおてきても、全ては自分の手元にあるのだから簡単に読み返すことができる。これは私だけかも知れないが、パソコンや携帯の画面のみで見たものは、べなしに頭に残りづらく、気がする。何でもかんでも液晶の画面に現れては消えていくだけの世の中ではあまりに空しい。新聞や雑誌ぐらいは今の手元に残る冊ととどめてほしい。